

福島第一原発の無残な姿



お日様と風水と海で電気はつくれる

文芸春秋五月特別号掲載の評論家立花隆氏の文「〜」によれば東日本大震災の「エネルギー」計算すると、マグニチュード九・〇の地震は、ヒロシマ原爆(十五キロトン)の三万二千発にあたる四百八十メガトン級ということだ。史上最大の水爆は、一九六一年にソ連が実験的に造ったツァーリ・ボンバ。五〇メガトンだったがあまり巨大すぎて実用されなかった。今回の津波はその十分の一のことだから水爆でもありえない破壊力だった。

水爆戦争は現実に行われなかったが、もし行われていたなら、米ソ各一万発以上持っていた(今もその五十%以上を保持)わけだから、今回の惨状が世界全体に広がっていたことになる【以上引用】

今回の地震のメカニズムは地球全体を被っている十数枚の岩盤(プレート)境目で「ひずみ」調整で起こったもの。今回は長さ五〇〇キロ動いたそうだが地球全体の直径の1%に満たない。お日様は上がり月は夜空を照らす。海も空気も地震前と大自然は変わらない。元々人類は自然の産物で、自然の中で生きた経験の積み重ねで知能が発達、欲望が増し、己が力で自然を越え支配出来ると思いがあつた。

今回の地震は、その先兵の日本にたいする自然の「鞭」のような気がする。一度立ち止まるのが大切だろう。

折りしもソフトバンクの孫正義社長は20日、「自然エネルギー財団」を数カ月以内に発足させると表明した。



発行所
株式会社サカタニ
集西薬・サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京都七条店
〒605-0993 京・東山区七条こころ坂下
・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
E-mail info@sosake.jp
とんからりんは
毎月発行の
会員新聞です
編集・酒谷義郎
yosi rou@sosake.jp

第76回朝粥食べておしゃべり会報告

4/17 3月第3日曜・今回の朝粥を食べる前
お話し「とんから映画を語る会」主宰
「私の映画人生」小野寛様

昨年7月の朝粥会に「黒澤監督や啓二などの話と交流のある三国連太郎」のお話になりました。好評でしたので、再度「お話」懐かしい話で参加をお願いした。今回は(米映画ダイティハー主役)クリント・イー好評でしたのストウッドから高峰秀子・原節で9月に又お子・美空ひばりやご同郷の佐田 願いました。

東大寺が1億円寄付

奈良市の東大寺は7日、今月中にも銀行からは1億円を借り入れ、東日本大震災の被災地に義援金として日本赤十字社奈良県支部を通じて寄付すると発表した。

同寺によると、天平時代の大仏造営の際、宮城県涌谷町から献上された砂金が仏に鍍金(とときん)されるなど、同県とは縁が深いという。

この日、奈良市内で会見した同寺の北河原公敬別当(写真)は「千年に一度ともいわれる広範囲な災害であり、借財して義援金を届けることにした。被災地で被害を受けた文化財の修復にも役立てていただければ」と話した。

(文と写真は産経ニュースより)

原子力発電所への依存から脱し、太陽光発電などを促進するエネルギー政策を提言する。財団だ。(資料88.8.8) 太陽光と風力、更に日本は海にぐるりを囲まれている国、潮流や波の力を利用すれば「電力を原発無し」で賄えるだろう。これらは全て「想定」できる事。核の無い世界には、日本は一番先頭で進むべきだろう。

「とんからりん」

幼児の頃、病弱で気の弱い「泣き虫」の子だった私に祖母は「男の子は、外で涙を見せたらあきまへん」と常に言っていた。

▼そのためか長じて、人目のあるところで、涙を見せない様に気をつけて来た。ところが歳を重ねて「涙腺」が脆くなってきたようだ。

特に東日本大震災後、被災された方々の姿、世界各国の支援隊や一般のボランティア等々活躍などをテレビ映像を見て気付かれぬよう涙ぐむ。

▼救援の人々の中には「最近の若い奴は」と非難の目で見えていた世代の人たちも少なくなかった。人類の未来に希望が見えた。嬉しい涙がでる。

「もう春なのに」キャンディーズの田中好子さんが乳がんが逝った。

まだお若いのに惜しい！

▼生前に残されたテープの声と言葉で涙が溢れた。

原発以後は東電・官僚、政治家の無感情(表情)事務的な発言には「怒り」しか覚えなかったが・・・！

ガツクリとした組織、地位の高さが「縛り」になり感情を「表に出さない」人間が増えて来たようだ？！

人間は感情の動物という。システムは人間性も変えるのか。

ヨシちゃんのこと



少々スピードダウンしては

「とんからりん」昨年10月号(主題は猫駅長)で和歌山県貴志川町に水害救援に行き参加中に「南山城水害」が起り京都に戻りその水害救援に参加したと書きました。今回東日本大震災の報道写真を見て「南山城水害時の井手町」の姿が目につきました。写真は、東日本ではなくて南山城水害、井手町の倒壊民家。大正池の決壊で一



気に潰れ水没した姿。限られた地域に短時間に多量の雨が降る「集中豪雨」と言う言葉が始めて使われた。南山城

水害とは、京都府南部に1963年(昭28)8月15日午前1時から午前5時以降まで、和束町湯船地域では総雨量428mm、時間雨量100mmに達するなど、正に記録的な大雨となり、人家より高い所を流れる(天井川)玉川の堤防が決壊、井手町の東山手にある「大正池」

が壊れ一気に町を襲い、井手町の人家は水没、死者107名がでた災害です。

その前日まで居た貴志川の水害は堤防が切れ浸水した家屋の「床下」や田畑の泥を除く作業でした。井手町場合は深夜に山裾の大正池が決壊、水の直撃を受けた家無残に壊れ、人や牛(農耕用)がその下に埋りました。町のほぼ中央を人家より高い堤防で玉川の一部欠損し、西には木津川の高い堤防(上は国道24号線)があり、町の北側は深く大きい池のような状態が十日余続きました。

ヤット水が減りましたが真夏で牛や鳥の鶏の(人も)死体異臭が満ちた中で潰れた校舎の下から、女性の俯いた遺体、消防団の人が動かすと下から「赤ちゃん」の遺体が見つかりました。キット必死で身体を庇せて「赤ちゃん」を護ろうとしたのでしょう。近くにいた人は手を合わせながら涙を流しました。

この水害は敗戦8年後、朝鮮戦争休戦直後のことです。その年の10月半から12月まで木津川土手のバラック小屋に住み救援のお手伝いをしていました。今や当時と比べられない程日本は豊かになりました。経済も科学技術力も大きく向上しています。



小惑星イトカワ・大きさは540m×270m×210m

地球から距離は約370万km離れている太陽系の小惑星「イトカワ」から「微粒子」を持ち帰った日本の小惑星探査機「はやぶさ」が地球へ帰還2009年10月19日。そんな技術があっても地球上の地盤の歪で起こる五ヶ月後の大地震の予測は出来なかった。日本(人類)は「上を向いて歩く」と急ぎ過ぎたのかもしれない。少しスピードダウンしても良いのでは。

幸いなことに無残な被災地への支援が日本各地世界各国からよせられています。人々のつながりは切れていません。

ナポレオンの睡眠



フランス皇帝ナポレオン一世ボナパルト(1769~1821)は一日三時間しか寝なかったという。「余の辞書には不可能はない」と豪語したが流刑地で51歳で亡くなった。死因は胃がんとか毒殺とか諸説あるが「寝不足」の積み重ねかも?。

ナポレオンと比べると我輩は

被災地の報道では、大被害のなかで数多くの美談や人々の人情味あふれる行動が伝えられています。美しい地球と人類は大丈夫です。乗り越えられなかった災害はなかった。東日本もそうだし!

原発と梅小路水族館

チェルノブイリ原発事故から25年、あの時は遠い国での話。お隣の福井県には沢山あることは知っていてもマア京都は大丈夫だろうと思っ人が多いだろう。

唯一の被爆国で「核アレレギー」が強いはずなのに何時の間にか「原発の安全性」を信じるか無関心の人が増えた結果が今の福島原発での大騒ぎに繋がった。

せた側(反対しなかつた無関心の人)反対した人でも被っている。当時、今まで「原発」を推進してきた人は沈黙のまま。責任者は誰なんだ。そう思っている時、京都新聞(ヤミ)の「窓」欄に「水族館建設を白紙にして」と題した投稿が掲載されていた。主旨は「元もと「公域非難場所」を狭くして海の無い水族館はいらない」とある。寺田寅彦の言葉に「天災は忘れた頃にやってくる」とあるが「忘れない」間でも来るかもしれない。都市機能として万一の場合のために「避難場所」は必須条件だが「水族館」は必須ではなく選択出来ること。「銭より命」と思えば白紙に決定。市長さんは責任重大ですぞ。

「トリリスの水割り」だが睡眠時間は(9・10時間)と比較的短い。20年以上年中無休24時間営業で「人を働かせ」て自分がグッスリの気分になれない性格もあってそれが日常になってしまった。生来は遅寝、寝起きの悪い方であつたが今は夜は6時過ぎ寝て朝は4時起きが習慣になってい

る。寝つきも目覚めも極めて良い。私の反面教師的だった父は前日どんなに夜遊び深酒をして翌朝は何時早く起きていた。それは尊敬していた。先日、カリフォルニア大学の研究者らは1日6時間の睡眠だ

京都&東山
ぶらりピカリ
28

七条と二条坂
女坂と二条坂

今号「市電が走った街」の写真は七条通「どんつき」の智積院山門から西をみた光景とその北側の上り坂を京都女子学園に向かう女子学生生徒の写真が掲載されている。この坂道は誰が何時つけたか判らないが「女坂」の名で呼ばれている。

この道は、豊臣家没落後徳川幕府によって壊された元「豊国廟(下に縁有り)」を明治政府の後押しで1900年(明治33)東山「阿弥陀ヶ峯」山頂の太閤廟整備の際に造られた。

鴨川から智積院に至る七条通も緩やかな坂道である。前号掲載の経緯があつて七条通は歩き易い歩道の完成、街路灯建替えた際、新しい「通」の名前をつけようと相談し「こころ(心)坂」と決つた。京都女子学園(1888年明32創立)は「心の学園」と称されていることや七条通は三十三間堂、京都国立博物館(は9年明30開館)が接しているのが「こころ坂」名の由来だ。漢字でなく「こころ」となつたのは「女坂心坂」ではチョットなあ？の気配りのようだ。

この辺りは明治時代初期は洛外で有った。父からの聞き伝えであるが本町通りに沿つて人家や店があつたが当社の裏からは芹田や畠が塩小路まで続いていたという。この町も京都市に下京区として組み入れ人家が急増し1929年(昭和4)東山区になる。この町や通の名に鞘、棟梁、塗師、ヤカン町があり、近世でも清水焼・京扇子職人が多い地域だった。戦後、細い路地に家が密集し子供も多く良い住環境なく

市電が走った街
京都を巡る
福田静二



「博物館三十三間堂前」を出た市電は、北に京都国立博物館、南に三十三間堂、京都パークホテル(当時)を見ながら、「東山七条」に着きます。

市電七条線はここで東山線と丁字に交差します。西から来た市電のうち、祇園・烏丸車庫方面へ向かう系統は、左折した東山通に停留所がありました。東福寺・九条車庫方面に向かう系統は、右折した東山通に停留所が、反対に西へ向かう市電は、七条通に停留所がありました。

経済発展とともに若い世代が山科や伏見に移り住み、町には高齢者世帯が急増し商店も減つた。(高齢者人口比率は81%)が、最近はこの町は良い町と新築家屋若い世帯も増え来た。東山区面積は7.46km²、京都市の1%人口は330人で人口密度は高く、交通便も良く、風致地区規制で住環境も乱開発から護られている。その上に観光資源や学生生徒も多い。東山の東西の大通では「こころ坂の七条は三、四、五条

東山七条、市電時代に何度ここを訪れて写したことでしょう。智積院のゆるやかな石段に腰を下ろして、七条通を上がつてくる市電を、飽かずに眺めていました。ここからは、市電だけでなく、七条京阪を行く京阪電車までも見える、絶好の撮影ポイントでした。

七条通に続く土塀を背にして、雨に濡れながら通り過ぎる市電、晴れ上がった夏空のもと、ホテルの樹木が涼やかな日陰をつくる中を軽やかな足取りで下ってくる市電、すべてが絵になり、多くの写材を提供してくれた東山七条でした。加えて平日の朝、交差点付近で見られる、京都女子学園の学生さん達の登校風景と市

洛中洛外図屏風 舟木本から太閤廟



より優れた条件が揃つているがこの通は電柱が地中化されてない。風致地区規制を行政施策で示してほしい。間もなく七条大橋架橋百年「お祝い」にお色直しとお洒落な照明を付けて上げて欲しいと願つた。

物語」の写真展で、京女の登校シーンを撮った一点を展示したところ、見に来られた女性から、写真に写っている一人は自分の友人だと言われ、学生時代の思い出をたくさん語っていただきました。写真が、人の記憶を思い起こさせる契機になったのです。このたびの東日本大震災でも被災された方が、瓦礫の中から見つけ出した写真やアルバムから、生きる勇気をもらつたと、新聞やテレビで見聞きました。

記憶はやがて失せて行きますが、記録は消えませんが。人の思い出に残る写真、その写真を見ると、心が癒され、なにか前向きになるような、そんな写真を撮り続けて行きたいと思っています。

東山七条の思い出から、違つた方向へ行つてしまいました。思い出の詰まった停留所なのです。



東山七条の朝の名物、登校生と市電



そうそう、こんなこともありまして。以前にサカタ二さんで開催しました「京都から見た、東山七条を行く市電」。

酒屋で生きて 生かされて

第五十七話

統制と配給

戦時色が強く

なり1939年(昭和14)4月、酒類価格が公定価格(公定マルコウ)になり、それは1960年(昭和35)5月1日、(マルコウに似た)基準価格が設定されて終わった。1966年(昭和41)10月、酒屋の企業整備(強制的廃業)で酒卸は「酒配給公団」と「京都酒類統制会社(後、日本酒類販売(株)京都支店)に集約された。父一郎もそこに入社した。その時の経験から「酒卸業」の方向に進んだのだらう。

店は祖父が酒塩配給所、祖母が「国民酒場」を営んでいた。それも1966年(昭和41)頃から配給も途絶えがちで商品が無く休業状態中で敗戦。その17日後、祖父が没し父一郎が家長となった。

敗戦直後暫くは、停電、ガスも出ない。売る商品は戦時中より更に減った。父は従事していた航空隊の物資調達業務の仲間と創った「会社」の専務になり、軍用品のツテを利用しエチルアルコールで「焼酎」をつくり帆布や魚など仕入れ販売していた。

先日見つかった昭和20年代まで店に掲示していた組合員章表示

父は専務をしていた会社を辞め1968年(昭和43)に統制会社甲卸免許「日酒販」になりその建仁寺近くと本町七丁目の二ヶ所で「荷捌所」を引受けとして酒卸の仕事始めた。1969年(昭和44)7月ビール卸免許、同年11月に「全酒類乙卸免許」を得て「酒小売・居酒屋」を廃業、酒卸業を始めた。

父は卸免許を申請する前、私(高校1年)に意見を求めた。私は「卸」業は中間搾取で成り立つ商売だから「反対だ」と述べた。が父は免許が取れるかどうか判らないが取りあ

えず申請すると言った。当時、妹(異母)二人、今共に仕事をしてい

る弟は1.5歳なので長男の私に一応話したのだらう。

酒卸業は朝日麦酒特約、菊正宗、富久娘などを扱い順調にのびた。オート三輪を購入、私も横に乗り配達を手伝い、店員事務員10人程雇い、自社ブランド「神馬」を三重や滋賀の蔵でつくって販売した。「お酒」はまだ売り手市場時代、業績は鰻登りだった。(参考)甲卸「酒税抜きで仕

マツダの三輪車1950年式
当時37万円



入れて翌月末「酒税」を税務署に納める大卸店・乙卸は、酒税込みで仕入れる小規模卸店の事。今は酒卸に甲乙区分はない。焼酎にも甲。連続式蒸留しようちゅう。乙。単式蒸留しようちゅう。2009年になって甲乙の差別的ランク呼称は酒税法でも

「いきいきコール」は毎日、会話をしていますか？人間の脳の血流量が最も多くなるのが、自分で話をしている時です。会話は元気を引出します。1日1回の会話で、ほんの少し元気になっていただけたら、喜びを分かち合えたら・・・京都いきいきセンターでは、毎日そんな会話をしています。私たちと毎日会話をしましょう。その結果、安否見守りにもつながります。



酒配給資料をネットで調査中、門司・「魚住酒店さん」の写真(昭和18年の酒類配給所看板)を見つけ懐かしうご了解て掲載

四月号までこの4ページに五回にわたって連載の「日本古代史の謎」は都合により連載を中止です。次号から「知らない」と損をする保険の話(仮題)の連載になる予定。執筆は「古代史」と同じく清水克彦様をお願いしています。

編集後記

。自分勝手

ケ防止」だと思ひながら続けているこの「とんからりん」毎年四月になると廃止したくなるのです。

●理由は「読者」お届け先「友の会会員」様が減少します。減る原因は「毎年3月末で会員証更新」を有料でお願いしているからと思つてます。

○「何処でも会費なんて取らへんえ」と良く言われます。ファミマもそうですから良く知っています。が、数を優先し誰も彼もには？

●地域、酒、ファミマ、ホール、ネット「とんからりん」等でご縁で結びあう「友の会」で有りたいと思ひ歩み続けて来たつもりです。

●編集者はアット言う間に喜寿。が、まだ80歳までは大丈夫？と思ひ、やり残っている仕事をまとめたのです。会員さん増やしもその一つ。ご応援を！

「いきいきコール」は

毎日、会話をしていますか？

人間の脳の血流量が最も多くなるのが、自分で話をしている時です。会話は元気を引出します。

1日1回の会話で、ほんの少し元気になっていただけたら、喜びを分かち合えたら・・・京都いきいきセンターでは、毎日そんな会話をしています。私たちと毎日会話をしましょう。その結果、安否見守りにもつながります。

ご利用者様の声

「妹がいますが、迷惑をかけたくないので、いきいきコールを頼りにしています。認知症になるのがとても恐いので、変なことを言ったら気づいて下さいね。」

ご利用者様の「家族様の声

「いきいきコールを利用して一年になります。以前は家族にとつて安否はもとより本人の体調面について大変心配しておりましたが、利用するようになって、毎日の会話の中から声の調子など体調にも気づいていただきとても安心していきます。今後ともいきいきセンターの皆様のお世話になりますのでよろしく願ひいたします。」

3月20日の「朝粥食べておしゃべり会」参加下さった京都いきいきセンター難波様からご案内(P.R)です。

詳しいお問合せ先は「京都いきいきセンター」

電話(フリーダイヤル)

0120-566363迄